

頑張る 農業法人

京丹後市久美浜町布袋野地区の農家4戸8人が、農機の有効利用をすすめるとともに、高齢化や有害鳥獣被害により生産意欲が減退して休耕地が増加していく中、地区内の農業を担うために1990年に立ち上げた農事組合法人「田吾作」。

経営面積は小さいものの都市住民との交流事業を積極的に展開し、地区内外に農業の魅力を発信して担い手確保につなげようと先進的な取り組みを行っている。

同地区は同町南部の中山間地に位置する水田地帯で、約70戸のうち30戸ほどの農家により水稲生産を中心に行っている。農家4戸でコンバインを共同利用する目的で4戸の夫婦8人が組合員と

なつて農事組合法人を立ち上げた。

当初は4戸の農地で経営を行ってきたが、地区内の農家の高齢化が進んできたこと、イノシシや鹿の被害が増加して生産意欲が減退し、遊休農地が増えてきたことから、法人に農地を預けたいとする要望が強まってきた。

農地を受け入れれば防護柵の設置経費が掛かり経営が厳しくなるが、地区内の農地を守ることが第一と、農地の引き受けに踏み切った。

法人の役員は代表理事の笹倉惇壹さん(71)の他、理事2人、監事1人と、会計事務の従業員1人で経営に当たる。

現在9畝のうち6畝で水稲を、残り3畝のみず

京丹後市
久美浜町

農事組合法人 田吾作

収穫した野菜類を手にした女性スタッフたちと頑張る笹倉さん(右)



農地守ることが第一

菜をハウス6棟で周年栽培する他、新丹波黒大豆も取り組み、JA京都にエコファーマー認定を

後継者確保で農業の魅力発信

受けて、無農薬生産にも挑戦する他、田植え・稲刈りの農作業受託も行っている。

目下の大きな課題がイノシシや鹿などの被害対策だ。規模拡大でコスト削減しても有害獣対策の経費が膨らむ。

田吾作では「農地を守るための生産現場の苦労を少しでも知ってもらいたい」と、有害獣被害対策や、安全・安心の米作りの実態を都市の人にも紹介している。

田吾作の今後の課題は「後継者を確保すること。今年3月に府の『きょうと食農体験農場』の認定を受け、都市住民や地元小・中学校生らの農業体験に取り組んでいる。こうした活動を通じて農業の魅力を外に発信し、後継者の確保につなげたい」と話す。

▽法人所在地 京丹後市久美浜町布袋野1479。電話 0772(85)0002。